

多様性のなかの統一 -- インドの特徴 (異文化言い分EVEN)

著者	Sahoo Pravakar
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	179
ページ	54-54
発行年	2010-08
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00004450

多様性のなかの統一 —インドの特徴

プラヴァカル・サフー

いま、インドという明るい話題のニュースが多い。また現実にもそうである。インドは世界で経済成長が著しく、生活の場としてもエキサイティングである。伝統と現代性が調和し、完全に融け合っている。インドの音楽、宗教、精神性、料理、寺院、建築、民主政治、映画は世界中に知られており、海外旅行を予定する人ならインドを候補地に入れない人はいないだろう。多くの人が訪れたい国であり、最近旅行した友人はインドを適切にも「すばらしくもありひどくもある」と評した。交通事情、暑さ、人混みの面では「ひどい」と感じさせるし、タージマールの神秘的な不思議さや遠い農村で見る夕日の美しさに触れたときは「すばらしい」と感じるのである。

家族の絆と宗教はインド文化の背骨を形作っている。宗教は人びとにとって重要であり伝統の大きな部分を占めている。宗教は生活のあらゆる面—日常の雑事から教育や政治にわたりインド人を支配している。ヒンズー教を信仰している人が多数で人口の八〇%以上を占める。他には、ムスリムが突出した宗教グループであり、インド社会の重要な部分である。バガヴァッド・ギーターとコーランはインド人には人生の指針となっている。インド文化は豊饒で多様、いろいろな点でユニークである。現代的な生活様式や改善された生

活スタイルを是としつつ、価値観や信仰は変わらないままだ。今日にいたるまでインド文化は来客を神様として遇し在のごとくもてなす。年配の

人びとの存在そして彼らへの尊敬の念はインド文化の要である。どの家庭でも年配者がとりしきる。彼らへの愛情や尊敬は内から自然とわき出るものであり、とってつけたものではない。個人は年配者の脚を触ることに喜びを与えられる。我々は成長する過程で年配者からインドの文化を教え込まれ受け継いでゆく。

困った人を助けるということもインド文化のもう一つの美德である。我々は幼いときから貧しい人や苦しんでいる人をお互いに助けるように教えられた。お金がなければすくなくとも物や非金銭的な方法で助けよ。喜びや楽しさは何倍にもしてまわりに与えよ。悲しさや苦しみは分かち合え、と教えている。それを実践することにより人びと同士が協力の輪を広げより良い生活を送り、結果、この世界を幸福の地にできる、とインド文化は言う。

技術の進歩、女性の因習からの解放に伴って、自由と西洋の概念—衣服、信条、労働など—とが混り合い、そこに世俗的な概念が混り込んでいるのが今のインドだ。しかしインド人は明確にインド的なものを心に持っている。海外に住むインド人達も祖国を思う気持ちを持っている。彼らはおもてなしの心と寛容の精神の高さで知られている。適応能力は高い国際的な舞台で競争力を競うことができる。インド人は自己を地球地図の上に位置づけ、自分の信条や伝統を伝えることを展望として持っている。ヨガや瞑想を通して健康と幸福を与えられることが豊かなるヒンズーの伝統におけるヴェーダの偉大性の泉になっている。それは実際、世界に恵みを与えてきた。

インド人の誰もが絶対と思っているのが家族の大切さである。インドでは家族の文化は愛すること、耐えることである。女性は家庭に嫁ぐとその家の作法、日課、料理などに慣れ親しんでゆく。最近、多くなつた恋愛結婚も国境を越えた文化の融合の一例であり、一家の長老も認めるようになってきている。親と離れて住み、夫婦ともに

能力を要求される仕事を持つということでは核家族化も進んでいる。これは大都市では、まったく普通のことである。夫婦だけで子育てを行うが、離れて住む祖父母にはしっかり愛情や尊敬を払っている。昔の家ではそれこそ三世代、四世代の家族が同居していたものだった。インドの文化は西洋の影響を良い方向で吸収しつつも強い家族の伝統と絆を保っているのである。

西洋世界の人々の多くは、インドを因習にとらわれ貧困のなかに生活する自分たちとは違う世界に住む人々の集まり、異国情緒と悲惨さとのごたごたと思っている。この誤った受け止め方はメディアの偏った見方により広まったが、真実を隠している。近代インドの本質を形作る特徴を五つあげるとすると多様性、文化の深さ、すべての宗教への寛容さ、都市と農村との交流、そして精神性と近代性との共存ということだろう。

インドは独立以来、発展したが多くの深刻な問題と戦ってきた、その政治体制は世界最大の民主制である。インドの優れたところは誰もが言論の自由を有し、様々な点で自由な社会であるということである。インドは汚職が末端まで蔓延している国ではある。しかし同時にRight to Information法の下、行政に対し一〇ルピー(二〇円)を払うだけでだれでも情報を請求できる。このように事態は改善されている。蛇遣いの国から世界の先進的ITセンターへの変貌。インドは急激に成長した。言葉遣い、食、衣服、習慣、儀式など二八州と七の連邦直轄地域の境なくひろく変化が起こっている。一方で億万長者や技術者が増え、他方で貧困が広がっている。最新のラグジュアリー・カーの隣には荷車が牛に引かれ人力車が走っている、という国である。このすばらしい国を旅すればインドの魅力、豊かな文化遺産や伝統を実感できよう。蒸し暑い天気、ほこりっぽい道路、交通渋滞、洪水のただ中でも、ほほえみがあり、そのほほえみの訳もわかるだろう。多様性と美の国へぜひいらしてほしい。

Pravakar Sahoo / 海外客員研究員

出身国 インド
Associate Professor, Institute of Economic Growth, Delhi University
アジ研での研究テーマ Addressing C challenges for Infrastructure
Development in India: Lessons from Japan
滞在期間 2010年6月~12月